

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成29年5月
旭川市（北海道）

全体総括

○計画期間：平成23年3月～平成29年3月（6年1月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市は、平成23年3月以降、認定基本計画に基づき、「買物公園を中心軸とした機能集積の促進と、そのための近隣地区との連携交流」をビジョンに掲げ、平成21年に閉店した旧丸井今井旭川店の再生、及び「北の恵み 食べマルシェ」の開催による中心部の魅力づくりを、ハードとソフトそれぞれの中核事業と位置付けて、合計71事業を推進してきた。

旧丸井今井旭川店は、平成23年に「フィール旭川」として再生して以来、当該計画の事業による施設や多くの民間テナントの入居により、中心市街地の新たな集客の核となる施設として生まれ変わり、また、まちのシンボルである買物公園を舞台とした「北の恵み 食べマルシェ」は、期間中の来場者が100万人を越え、旭川市民だけではなく広く近郊の方々の参加も多くある中心市街地の馴染みのイベントとなるなど、これまで事業は概ね順調に実施され、一定の事業効果が現れている。

また、JR旭川駅を中心とする北彩都エリアでは、土地区画整理事業により、道路や公園などの基盤整備の完了とともに、ホテルやマンション建設のための保留地売却が進み、中心市街地における民間投資が活発になるといった好循環が生まれつつあり、さらに、駅舎の開業、中心部南北をつなぐ2本の橋（氷点橋、クリスタル橋）の開通、北彩都ガーデンの開業により、川を生かし、自然と都市が融合する魅力的な空間が創出され、季節を問わず、食やスポーツなど、様々なイベントが開催され、また、大型商業施設の開店も重なり、多くの賑わいをみせている。

本市の代表的な集客源となっている旭山動物園については、近年入場者数が減少傾向にあるものの、国内外から年間143万人の来場があり、市内及び近隣のガーデン人気と合わせた観光ルートが定着しつつある。

そうしたことから、旭川空港では空港の国際線利用者が急増しており、中心市街地では免税カウンターを設置して、外国人観光客をターゲットとしたテナントの出店が多く見受けられるようになるなど、新たな賑わいも生まれてきている。また、現在、国際線ターミナルの増設に向けて準備を進めている状況である。

しかし、様々な好循環が生まれ始めた一方、買物公園の北側エリアでは歩行者数が依然として伸びず、シャッターを降ろす路面店が目立っている状況である。また、平成28年3月に買物公園の駅前に位置し道北唯一の百貨店である西武旭川店が、平成28年9月末に閉店となった。

なお、旧西武を中心とした駅前エリアについては、新たなまちの活性化に向けた活用の動きが進みつつある。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画に位置付けた全71事業のうち、約9割の64事業が完了、2事業が実施中となっているが、5事業については検討を進めてきたものの未実施となった。

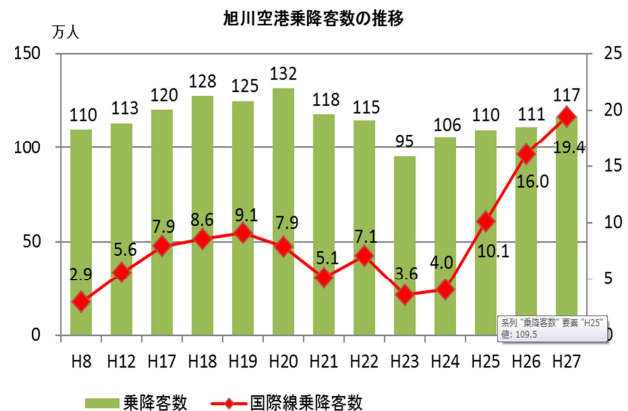
事業ベースでは、計画の約9割の事業を完了させることができ、旭川駅周辺のJR敷地や河川により南北分断されていた中心部に新駅舎、北彩都ガーデン、新たな橋が開通し、一体的なエリアとして生まれ変わり、新たな賑わいの拠点や市民の憩いの場として定着しつつある。また、区画整理により、ホテルやマンション、商業施設などの建設が相次いでおり、定住人口の増加のほか、圏域や道北全体の滞在拠点としての機能が強化されている。そのほか、常磐公園地区においては、公園や公会堂など多くの市民に親しまれている施設がリニューアルし、文化芸術ゾーン全体での連携の基盤が整ってきた。

【駅周辺のホテル開業状況】	
・H26年度	
ホテルA	198室(414人)
・H27年度	
ホテルB	120室(198人)
ホテルC	342室(714人)
・合計	660室(1,326人)

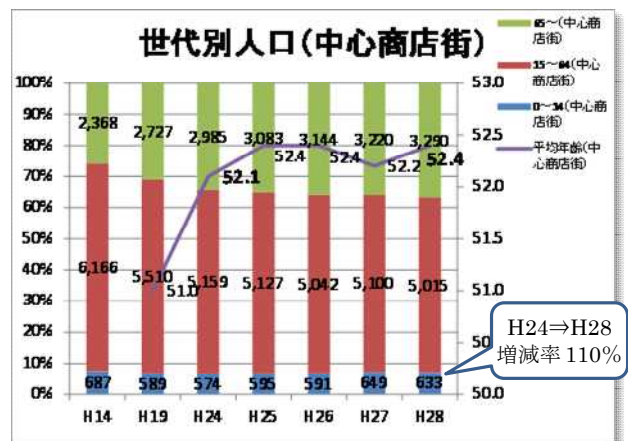
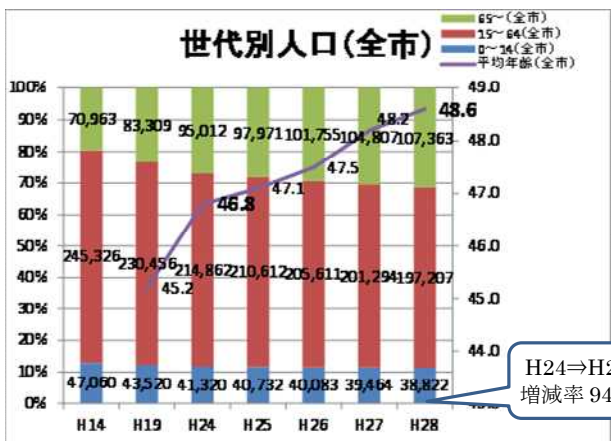
また、夏まつりや冬まつり、音楽大行進のほか、「北の恵み 食べマルシェ」といった基幹的なイベントも成長・定着しているほか、まちなか文化小屋や各商店街などによる日常的な人の流れにつながるイベント、取組が活性化してきている。

7条緑道では、地元の商店会や事業者などが市と連携して7条緑道の管理などを行う「緑道ワークス」が結成されており、そこを訪れるファンをボランティアとして巻き込みながら、自分事として、エリアづくりが進められている。

観光面では、旭山動物園や市内及び近隣のガーデンを組み合わせた観光ルートが定着しつつあり、旭川空港では空港の国際線利用者が急増し、中心市街地では免税カウンターを設置して、外国人観光客をターゲットとしたテナントの出店が多く見受けられるようになるなど、中心市街地への新たな人の流れも生まれてきている。



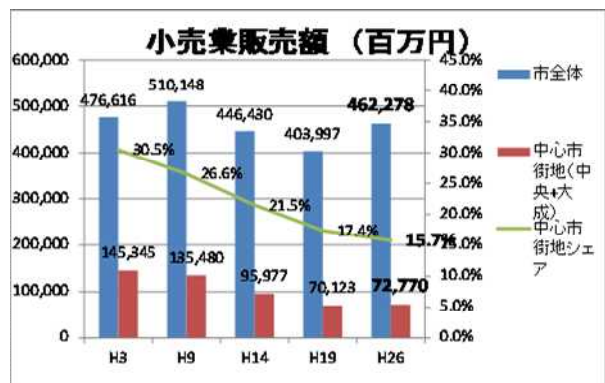
中心市街地の高齢者率は、約36%と全市平均(約31%)よりも早く進行しているが、子育て世代を対象とした市営住宅や道営住宅、民間マンションなどの整備などにより、15歳未満の人口も増加傾向にあり、まち全体のコンパクト化に係る取組と合わせたまちなか居住が定着しつつある。



このように、計画に基づく基盤整備を中心とした中心市街地活性化に係る取組が、現在の新たな動きに繋がっており、今後の賑わいや地域の主体的な取組を生み出す源となっている。

しかしながら、戸建て住宅と自家用車を中心とした郊外型の生活スタイル層をターゲットとしたロードサ

イド型の小売店や飲食店などの出店も続いていることや、パソコンやスマートフォンなどにより、どこでも誰でもいつでも買物などができる環境が飛躍的に進んでいること、全体的な景気の伸び悩みにより消費行動が停滞していることなどから、中心市街地においては、小売り販売額や床面積、事業所数も減少傾向にあり、特に買物公園北側エリアでは、依然として空き店舗が目立つ状況となっている。



こうした状況から、指標の1つとして掲げている「歩行者通行量」については、目標値には、なお差がある結果となっており、様々なニーズやデータの把握、分析により、中心市街地への来街の動機付けと仕組みの埋め込みを行っていくことが必要と認識している。

今後は、これまで進めてきた取組に加え、業務地としての中心市街地の活用という視点を加えるとともに、次代を担う地域や事業者、学生などと連携した人の流れやつながりを生み出す取組を一つ一つ積み上げていく段階であると認識している。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

本計画に位置付けた全71事業のうち、約9割の64事業が完了しており、指標の達成度についても、観光情報センター利用者数は目標を大きく上回ったほか、まちなか居住人口は未達成ながら目標値に向かい順調に増加している状況であり、一定の成果が現れている。

北彩都事業により、豊かな自然を取り込んだ都心空間が形成されたほか、旧丸井今井の再生を図り、さらには、市営住宅や公会堂、7条緑道、常磐公園など中心市街地の様々な基盤が整備された。

また、北の恵み 食ベマルシェなど基幹的なイベントのほか、まちなかマネジメント協議会や各地域、民間事業者などが主体となった様々なイベントが定着してきている状況である。

しかしながら、そうした効果は中心市街地全体に行き渡っておらず、日常の賑わいとなっていない。

今後については、これまで整備された基盤等を有効活用し、行政だけでなく、地域や事業者が主体的に考え、動き、成果づくりを進めていくことが重要である。

なお、西武跡活用等については、情報交換や対応の検討など官民連携して取り組んでいく。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

「中心市街地活性化需要調査」実施期間 11/18～3/24

- ・まちなかアンケート:フリーペーパーを活用した調査, 街頭調査ほか 約 650 件
- ・2次調査:ヒアリング調査 約 30 件
- ・座談会:第1回(3/3), 第2回(3/7), 第3回(3/9)

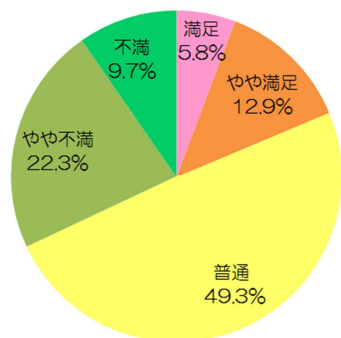
平成22年度と平成28年度に実施した市民などを対象としたアンケート調査の結果によると, まちなかに行く割合が多い人(月1回以上)は約25%減少し, まちなかの滞在時間は, 若干ではあるが短くなっている。

また, まちなかへの交通手段は, 約5割が自家用車となっており, 依然として, 住宅地と学校, 公園が近接し, 日常的な買物機能などが充実している郊外型のライフスタイルが定着し, 中心市街地への来街動機も通勤通学やイベントなどによるものが多い。

まちなかに対する満足度は, 「満足」, 「やや満足」の合計が, 18.7%, 「不満」, 「やや不満」の合計が, 32%となっている。また, 西武の閉店後の調査にもかかわらず, 「普通」と回答した人が約半数となっており, 無関心さがうかがえる。

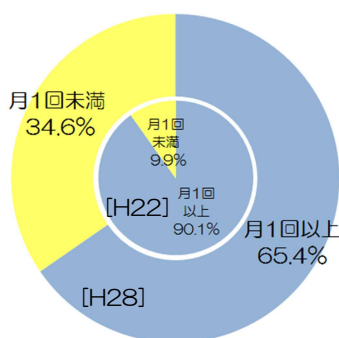
OH28年度「まちなかアンケート」街頭調査結果より

●「まちなか」に対する愛着度は？



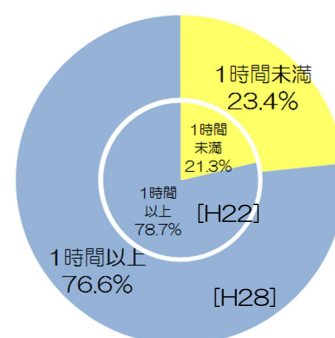
※H28年度の結果

●「まちなか」へ行く, または来る頻度は？



※外円は H28 年度, 内円は H22 年度の結果

●「まちなか」の滞在時間は？



※外円は H28 年度, 内円は H22 年度の結果

しかしながら, 商店街や事業者, 学生など実際のまちのプレーヤーが参加した(平成28年3月), エリアイメージやテーマ毎の座談会の中では, 「民間レベルでの取り組みを盛り上げていかなければならない」, 「若者の視点での取り組みも支援」, 「従来の組織体制ではなく, 新たな知恵でまちや人などの資源を活用する必要がある」, 「イベントに過度に依存しない日常の豊かな暮らしや人のつながりを重視した取組が必要」などの意見が多方面から共通して示されている。

OH28年度「まちなかアンケート」座談会(第1回)より

まちなか座談会

（旭川市委託事業）

第1回 ダイジェスト

テーマ 「銀座商店街の思い出と将来イメージ」
平成29年3月3日（金）実施

色々な価値観、多世代が繋がる場所
レトロな街並みが商店街の歴史であり魅力
時間をかけて人々の心に呼びかける

銀座食ベマルシェなどのイベントを
日常の賑わい
集客へつなげたい

自習スペースと
安くて面白い食べ物で
学生にも居心地が
良い場所をつくる

スカイラウンジ
からの景色は若い
世代には新鮮
ここでの取組を
次の世代へ

思い出の味を
復活できないか？

駐車場からお店まで
意外と近いこと
さらに安くて良い品が
あることを知らないのでは？

銀座商店街の思い出 動画が、こちらでご覧になれます

参加者
●丸井三喜郎 大塚社長 ●あざひ商店 村岡さん
●NPO法人ゆいゆい 野々村理事長 ●旭川信用金庫藤田支店 小西さん
●旭川銀座商店街振興組合 副理事長西島 ●北海道旭川商業高等学校 伊藤さん

旭川商業高校の学生の
企画運営による活性化イベント！
明日開催！
銀ビルスカイラウンジが
1日限り復活します！
平成29年3月11日（土）12:00～19:00
旭川市3条通15丁目銀座商店街
銀ビル最上階 スカイラウンジにて

OH28 年度「まちなかアンケート」座談会（第2，3回）より

まちなか座談会

（旭川市委託事業）

第2回 ダイジェスト

テーマ 「まちなかイベント」
平成29年3月7日（火）実施

イベント（イベント、一連性）と
日常（いつもそこにあるもの）の
相乗効果どう狙う？

スマホのアプリやSNSを
うまく活用して市内イベントや口ガ地を
送ったら特典（割引券など）がもらえたり
すると市民や観光客も楽しくなる

山に囲まれた旭川人の
気質は「まじめ」「慎重」
大小にこだわらず「やりたい」「楽しそう」
と思ったイベントはどんどんやる！

旭川は情報発信がうまくない
今あるものをどのように発信
コーディネートしていくか
検討することが重要

旭川の「オンリーワン」を
「まちなか」で推している！
旭川ならではの小遣や古いビルを
「ラーメン通り」にしては？
家具、道標もいいね

地盤大国日本にあって
とにかく地震がない
しかも川が多いが水害が少ない
安全な街旭川！？

買物公園でのカフェやイベント
やってみたいけど手番さが大変・・・
やりたい人をつなげる
仕組みがあるといいな

各都市の人は旭川の良さが
素晴らしいと言ってくれる
もっと自信を持とう

元気な高齢者が
増え、日常を通わせる
環境があると良い

家族連れや川の音など
駅海側の雰囲気がすごく気に入っている
夕日に染まる大雪山連峰など
都会では得られない感動がある

それぞれの店がエリア
全体の雰囲気づくりや
活性化を考える
「エリア主義」が必要
観光客の駐車場も
エリアでシェア

イベントと人やまちなど
「日常」がつながる仕組み
反響で人が安くなるのではなく、
会費を次につなげる

ヒトやモノ、カネを
域内で循環させる
仕組みを作れないか

観光客を呼びたいけど
大型バスの駐車場が
ほとんどない

「買物」公園と呼ばれる今の
姿に合っていない
新しい名称を考えては？

参加者
●旭川市観光課 藤田さん ●旭川市観光課 藤田さん ●旭川市観光課 藤田さん
●旭川市観光課 藤田さん ●旭川市観光課 藤田さん ●旭川市観光課 藤田さん
●旭川市観光課 藤田さん ●旭川市観光課 藤田さん ●旭川市観光課 藤田さん

各座談会からは、今後は、これまで整備してきた基盤を有効活用し、各エリアの個性を活かしながら、自ら考えて動くことにより、活性化につなげていくことが重要との認識が共有された。

6. 今後の取組

平成12年3月に旭川市中心市街地活性化基本計画を策定し、概ね10年間、基盤整備や推進体制づくりを進めてきた後、平成23年3月からは、内閣府の認定を受けた旭川市中心市街地活性化基本計画により、旧丸井今井の再生や北彩都事業のほか、公会堂リニューアル、食ベマルシェの開催など、基盤整備や基幹となるイベントの育成などを実施してきた。

また、一部では市民や地域、事業者が主体となり、また、学生なども巻き込み、新たな人の流れや将来の人材を育てる動きが顕在化してきている。

今後は、商業事業者の誘致のほか、業務地としての中心市街地の活用や地域や事業者、学生などと連携した人の流れやつながりを生み出す取組を一つ一つ積み上げていく段階であると認識している。

市民全体の意識も「基盤整備」から「取組の推進」へとフェーズが移行してきており、これまで整備してきた施設等を有効活用し、各エリアの個性を活かしながら、地域や事業者などが自ら考えて動ける、主体的かつ機動的な推進体制により、来街の動機付けと仕組みの埋め込みを進め、成果につなげることを目指す。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
中心市街地に訪れる人を増やす	歩行者通行量 (平和通買物公園)	132,157 人 (H20)	145,000 人 (H28)	111,664 人	H28.7	C
中心市街地に住む人の増加を図る	まちなか居住人口 (中心商店街地区)	9,494 人 (H22)	10,000 人 (H28)	9,715	H28.9	B
観光客の来街を促進する	観光情報センター利用客数	50,922 人 (H20)	60,000 人 (H28)	81,291 人	H29.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a, b, c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

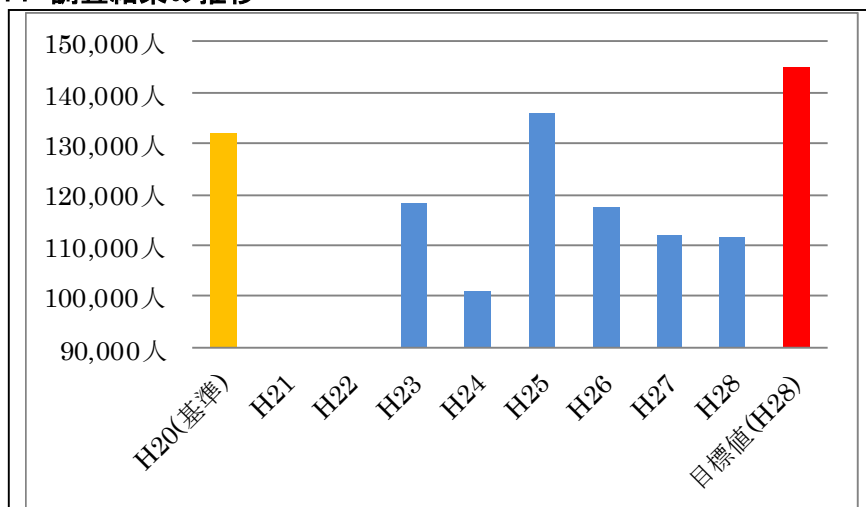
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標1「歩行者通行量(平和通買物公園)」※目標設定の考え方基本計画 P73～P87 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人/日)
H20	132,157 人/日 (基準年値)
H21	-
H22	-
H23	118,074 人/日
H24	101,121 人/日
H25	136,141 人/日
H26	117,591 人/日
H27	111,893 人/日
H28	111,664 人/日
H28	145,000 人/日 (目標)

※調査方法：歩行者通行量調査（平和通商店街）

※調査月：毎年7月（H27は現場の状況から6月）

※調査主体：中心市街地活性化協議会

※調査対象：歩行者通行量

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

(1) 丸井今井旭川店の再生

- ①. こども向け屋内遊戯場等整備事業（旭川市）
- ②. 学生等自主活動スペース創出事業（旭川市）
- ③. 高齢者大学設置事業（旭川市）
- ④. 市民相談窓口等設置事業（旭川市）

支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成23年度 中心市街地活性化ソフト事業[総務省] 平成24年度～平成28年度 ②社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成23年度 ③社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成23年度 中心市街地活性化ソフト事業[総務省] 平成24年度～平成28年度 ④社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成23年度 中心市街地活性化ソフト事業[総務省] 平成24年度～平成28年度
事業開始・完了時期	【実施中】平成23年度～
事業概要	平成21年7月に閉店した旧丸井今井旭川店の一部に、こども向け屋内遊戯場「もりもりパーク」、学生向け「自習スペース」、「旭川市シニア大学」、市民相談窓口などの公共機能を集約し、中心市街地への来街を促進する。
目標値・最新値	目標値(見込み)：31,100 人/日 最新値：△1,623 人/日(25,126→23,503 人/日(フィール旭川前)) (参考)もりもりパーク入場者数：10,756 人/月(358 人/日) (参考)シニア大学生徒数：265 人/日

達成状況	<p>[未達成]</p> <p>公共機能による集客効果への期待などにより、平成23年9月に「フィール旭川」として再生。6階及び7階に設置した公共利活用エリア全体で当初年間20万人の来客数を見込んでいたところ、「もりもりパーク」では開設1年目で累計15万人、2年目で累計30万人が利用し、その後も順調な推移を見せ平成29年3月末には累計77万人以上の利用実績となり、同商業施設の賑わいづくりに大きく貢献している。</p> <p>また、フィール旭川自体の空きテナントも徐々に埋まり、平成23年度は1.9万人だった1日の歩行者通行量が、平成28年度の調査では2.3万人を越える地点となり、買物公園の主な集客源となっている。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>中心部にこうした機能を埋め込んだことにより、新たな人の流れが生まれたものの、市内及び圏域の人口減少や日常的な買物や飲食、娯楽、医療・福祉などロードサイドへの進出の動きもあり、郊外型生活層の取り込みが停滞しているため。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成23年9月のオープン以来、子供向け屋内遊技場（もりもりパーク）の累計来場者数は77万人（平成29年3月現在）を超えており、また、月平均来場者数も1万人を維持しており、広く市民や圏域住民に定着している。</p>
事業の今後について	<p>当該機能は、中心市街地における交流の拠点となっている。</p> <p>特に子供向け屋内遊技場（もりもりパーク）は、冬期間、子供達が思い切って体を動かすことができることから子育て世代に人気であり、今後も、中心市街地周辺へのシャワー効果が見込まれることから、ニーズの変化に対応しながら継続して取り組む予定である。</p>

（2）公共公益施設の整備

⑤ 旭川駅周辺土地区画整備事業（駅前広場整備・駅前広場駐輪場・駅前広場の高質化）（旭川市）

支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成23年度～平成26年度</p> <p>社会資本整備総合交付金(道路事業(区画))[国土交通省] 平成23年度～平成26年度</p>
事業開始・完了時期	【済】平成23年度～平成26年度
事業概要	<p>鉄道、バス、タクシー、自家用車などの交通結節機能を強化するとともに、買物公園と北彩都地区との連続性を高めるイベント機能も兼ね備えた賑わい空間を整備する。</p>
目標値・最新値	<p>目標値(見込み):2,600人 最新値:1,645人/日(20,739→22,384人/日(旧西武B館前)) (参考)駅前広場 17,859人/日</p>
達成状況	<p>[未達成]</p> <p>平成25年度に駅前広場内に駐輪場(900台)と駐車場(88台)を整備し、平成26年度には駅前広場全体が完成、各種イベントなども開催できるようになった。</p> <p>また、路線バスや観光バスなどの乗降場所が駅前に集約され、市内や圏域の住民のほか、観光客などに対して利便性の向上が図られた。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>郊外型生活層の取り込みが停滞し、日常的なトリップの伸びが小さいことに加え、旭山動物園やスキー場、温泉地など郊外の観光スポットからの観光客の誘引も不足しているため。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成26年度に15件だったイベント数が平成27年度では45件と増加しているほか、夏期は北の恵み 食ベマルシェやビアガーデン、冬期は天然氷のスケートリンク「ゆっきリンク」など季節ごとに核となるイベントやアクティ</p>

	<p>ビティを展開し、市民や観光客にも認知が進んできている。</p> <p>また、駅前広場の観光バス等の利用率も平成27年4月の2.8%に対し、平成29年3月では39.4%と大幅に伸びており、中心部エリアへの人の流入が進んでいることがわかる。</p>
事業の今後について	<p>今後は、市や外郭団体などの取組のほか、地域、隣接するJRや大型商業施設など民間事業者の取組もしくは連携した取組を進め、持続的なエリア全体の集客、賑わいづくりに繋げる。</p> <p>また、市域、圏域全体の公共交通の利用促進などの取組とも連携しながら、中心部へのトリップ回数を増加させる。</p>

(3) 北彩都地区の整備

⑥. 北彩都地区ガーデン整備事業（旭川市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成23年度～平成28年度
事業開始・完了時期	【済】平成23年度～平成28年度
事業概要	旭川駅南側広場から大池南側において市民協働のもと、旭川の個性を活かしたガーデンを造成し、市民や観光客を中心部に誘引し、買物公園などへの誘客を図る。
目標値・最新値	目標値(見込み):5,100人 最新値:1,645人/日(20,739→22,384人/日(旧西武B館前)) (参考)駅前広場 17,859人/日
達成状況	<p>[未達成]</p> <p>平成25年度に旭川駅南エリア「アウネの広場」が完成、供用を開始し、旭川駅を訪れる観光客や市民で賑わいを見せ始めている。平成27年度には、宮前公園西エリアの供用が開始され、1日400人前後の来園があるものの、買物公園への人の流れにつなげていない。</p>
達成した(出来なかった)理由	新たに創出した魅力的なエリアである北彩都ガーデンの市民や圏域住民など日常的な来街を見込める層への認知度が低く、見込んだ効果を引き出すに至っていない。
計画終了後の状況(事業効果)	北彩都ガーデンは、本市の自然環境や草花を愛する市民約70名のガーデンボランティアによる管理運営により成り立っており、そうした方々の来街が中心市街地の他エリアへの波及効果が生まれる可能性が十分にあり、こうした市民レベルのロコミを通してファンが広がりつつある。
事業の今後について	34万都市の中心部にありながら、様々な北北海道の自然環境を満喫できる他に例を見ないガーデンであり、今後は市民や圏域住民への浸透、ガーデンボランティアによる取組の維持、拡充、さらには、広域的なガーデン同士の連携によるインバウンドを含めた観光客の誘致など、イベントやワークショップのほか、観光地としての機能を高めながら、日常としても非日常としても魅力的な場所として定着させていく。

⑦. 都市公園等統合事業（神楽橋下流右岸広場）（旭川市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市公園等事業)[国土交通省] 平成11年度～平成27年度 河川改修事業[国土交通省直轄] 平成11年度～平成24年度
事業開始・完了時期	【済】平成11年～平成27年度
事業概要	北彩都地区に隣接する忠別川の河川空間の霞堤を活用し、人々が集う「大池」を形成し、中心市街地の中に都市空間と融合した自然あふれる親

	水空間を創出することで、市民や観光客の来街を促進する。
目標値・最新値	目標値(見込み):5,100人 最新値:1,645人/日(20,739→22,384人/日(旧西武B館前)) (参考)駅前広場17,859人/日
達成状況	[未達成] 平成25年度に完成した北彩都ガーデン旭川駅南エリアと平成27年度に供用が開始された宮前公園西エリアが接続し、ガーデンを楽しむ市民や観光客を中心部へ誘導する動線が確保された。今後のガーデンの成熟とともに来園者の増加を見込んでいる。
達成した(出来なかった)理由	⑥. 北彩都地区ガーデン整備事業に同じ。(一体的な空間であるため)
計画終了後の状況(事業効果)	⑥. 北彩都地区ガーデン整備事業に同じ。(一体的な空間であるため)
事業の今後について	⑥. 北彩都地区ガーデン整備事業に同じ。(一体的な空間であるため)

(4) 神楽地区からの回遊性の向上

⑧. 旭川鉄道高架事業(新駅舎整備)(北海道, 旭川市, JR北海道)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路))[国土交通省] 平成17年度～平成23年度
事業開始・完了時期	【済】平成17年度～平成23年度
事業概要	本市中心部を南北に分断していたJR宗谷本線を高架化し、南北の回遊性を高めるとともに、新駅舎を平成23年度にグランドオープンさせ、鉄道利用者の利便性・快適性を向上により利用客が増加することで、中心市街地への誘導を図る。
目標値・最新値	目標値(見込み):2,600人 最新値:1,645人/日(20,739→22,384人/日(旧西武B館前)) (参考)駅前広場17,859人/日
達成状況	[未達成] 鉄道高架化と氷点橋(平成23年度)及びクリスタル橋(平成25年度)の開通により、買物公園と神楽地区のアクセス性が向上した。 また、平成27年3月にイオンモール旭川駅前がオープンし、中心部にこれまで以上の買物客を呼び込んでいるが、想定したほど数値として表れていない。
達成した(出来なかった)理由	新駅舎は、平成22年10月に一部開業、平成23年11月に全面開業となっており、乗客数は、平成21年度で1,624,360人、平成24年度で1,653,637人と開業前後で、29,277人、約1.8%の増加となっている。 しかしながら、平成27年度では1,532,838人と交通手段としての利用は低下傾向にある。 また、神楽方面においても郊外型の生活スタイルが主流であり、中心市街地を日常の買物機能などとしての利用が浸透していないことが要因として挙げられる。
計画終了後の状況(事業効果)	河川を挟む神楽地区から駅への距離が飛躍的に短縮されたことから、特にイベント時などにおいては、これまでは自家用車やバスなどの公共交通機関での来街が主であったが、景色を楽しみながら、徒歩や自転車由来街する光景が多く見られるようになった。
事業の今後について	「北の恵み 食べマルシェ」では、駅マルシェとしての集客が、168,000人(平成28年度)あったことや、今後、北彩都ガーデンと連携した取組の推進等、新駅舎のスペースを活用した新たな取組により、新駅舎の利用者は

	更なる増加が見込めるものと認識している。また、駅周辺部においてはホテル・商業施設等の開発が現在も進行中であることから、今後、来訪者が増加するものと予想される。
--	---

⑨. 都市計画道路（3・3・14号昭和通）整備事業（旭川市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業(街路))[国土交通省] 平成17年度～平成25年度
事業開始・完了時期	【済】平成17年度～平成25年度
事業概要	鉄道の高架化とともにクリスタル橋を建設し、旭川駅南北の交通の分断を解消することで、中心市街地南方からのアクセス向上を図る。
目標値・最新値	目標値(見込み):2,600人 最新値:1,645人/日(20,739→22,384人/日(旧西武B館前)) (参考)駅前広場 17,859人/日
達成状況	[未達成] クリスタル橋の開通により、道の駅やコンベンション機能などが集積し、1日3,000人以上が来訪する神楽地区と中心市街地のアクセスが向上し、中心部の南方から新しい人の流れが生じており、上記⑧「旭川鉄道高架事業」等の効果と合わせて、平成25年度の歩行者通行量が136,141人と回復に転じたことに繋がっているものの、その後は減少しており、平成28年度は、111,664人となっている。
達成した(出来なかった)理由	クリスタル橋(平成25年11月開通)においては、平日の自動車類の通行量は5,013台、歩行者は513人、自転車は672台となっている。 氷点橋(平成23年4月開通)においては、自動車類は11,912台、歩行者は342人、自転車は903台となっており、自動車動線だけでなく、徒歩や自転車の動線としても利用が進んでいる状況となっているが、買物公園が日常の買物機能として浸透していない。 また、道の駅来場者数は、アクセス性の向上に加え、機能強化を図った相乗効果により、平成22年度の632,202人に対し、平成27年度では784,937人と増加しているが、買物公園との連携が進んでいない。
計画終了後の状況(事業効果)	河川を挟む神楽地区から駅への距離が飛躍的に短縮されたことから、特にイベント時などにおいては、これまでは自家用車やバスなどの公共交通機関での来街が主であったが、景色を楽しみながら、徒歩や自転車で来街する光景が多く見られるようになった。
事業の今後について	今後は、両地域の機能連携を図りながら、一体化された利便性を生かし、回遊が促進されるよう、取組を進めていく。

(5) 常磐公園地区からの回遊性の向上

⑩. 地域交流センター(旭川市公会堂)整備事業(旭川市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成22年度～平成24年度
事業開始・完了時期	【済】平成22年度～平成24年度
事業概要	昭和33年に開館し、老朽化が進んでいた公会堂を利便性及び機能面を向上させてリニューアルし、常磐公園や中央図書館などと相まって、これまで以上に多くの人々が来訪する施設として再生することで、買物公園への回遊を図る。
目標値・最新値	目標値(見込み):800人 最新値:△548人(3,012→2,464人/日(まちなかぶんか小屋前))
達成状況	[未達成]

	老朽化などにより、平成23年度では年間利用者数が39,205人と利用が低迷していたが、リニューアル整備後の平成25年度は46,480人、平成26年度は46,895人と利用者数が増加したが、平成28年度は42,420人と減少している。
達成した（出来なかった）理由	文化芸術ゾーン全体に人の流れが生まれるような相乗効果が生まれるに至っていないため。
計画終了後の状況（事業効果）	当該エリアは、以前から夏祭りや冬まつり、北の恵み 食ベマルシェ、花火大会など、本市を代表するイベントが行われている。 また、河川敷のサイクリングロード、常磐公園、美術館、公会堂、図書館など、エリア内の各施設は、それぞれ一定の集客がある状況である。
事業の今後について	イメージやストーリー性を共有しながら、エリア内で魅力を高め、連携して取組を実施し、相乗効果を図る。

（6）空き店舗・商店街対策

⑪. 中心商店街出店促進事業（旭川市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成23年度～平成26年度 中心市街地活性化ソフト事業[総務省] 平成27年度～平成28年度
事業開始・完了時期	【実施中】平成23年度～
事業概要	中心市街地の空き店舗への出店希望者に対して、家賃補助に加えて出店相談など行う。空き店舗への新規出店により、商店街の活性化や来街者の増加を促進する。
目標値・最新値	目標値(見込み):1,000人 最新値:△548人(3,012→2,464人/日(まちなかぶんか小屋前))
達成状況	[未達成] 平成23年度11件、平成24年度17件、平成25年度11件、平成26年度11件、平成27年度17件と、これまで累計67店舗の制度利用による新規出店があった。これまでの事業実施により、買物公園4条以北の空き店舗など、歩行者通行量の少ないエリアへの新規出店があったほか、7条緑道の周辺などに個性的な店舗の出店もみられ、商店街の魅力向上や賑わいづくりにつながっている。
達成した（出来なかった）理由	旭川商工会議所の買物公園に面する1階路面店における空き店舗に関する調査によると、平成24年11月では18箇所、平成27年11月では29箇所、平成28年8月では20箇所となっており、出店が促進されている傾向とはなっていない。特に買物公園北側エリアにおいては、事業者の高齢化が進んでおり、継承者もおらず廃業となるケースが徐々に増えてきていることも影響している。 (参考) 平成27年11月空き店舗数 4条以南:10, 以北:19 平成28年 8月空き店舗数 4条以南: 4, 以北:16
計画終了後の状況（事業効果）	依然として、空き家、空き店舗数は減少傾向とはなっておらず、居住者の高齢化などから、今後、増加の可能性はある。 しかしながら、7条緑道付近や常磐公園周辺エリアなどにおいては、ソトモノによる魅力的な個店などが進出し、商店街活動などまちづくりにも積極的に参画する雰囲気醸成されてきている。
事業の今後について	意欲のある地域のキーマンや学生、事業者などを巻き込みながら、将来のエリアイメージを共有しながら、元々持つ魅力と新しい魅力を融合するような取組を進めていく。

⑫. 空き店舗を活用した小劇場・映画館開設事業（まちなかぶんか推進協議会）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成26年度 中心市街地活性化ソフト事業[総務省] 平成27年度～平成28年度
事業開始・完了時期	【実施中】平成26年度～
事業概要	買物公園7条の空き店舗を活用し、市民や地元の文化・演劇団体などが演劇、映画、落語などを行う「まちなかぶんか小屋」をつくり空き店舗の活用促進と、市民の多様な目的による来街促進を図る。
目標値・最新値	目標値(見込み):1,000人 最新値:△548人(3,012→2,464人/日(まちなかぶんか小屋前))
達成状況	[未達成] 平成25年8月25日に、「まちなかぶんか小屋」を開設。平成26年2月まで試験的に営業を行った。本格開設した平成26年度は、年間利用件数101件、利用者数2,983人、平成28年度は、年間利用件数279件、利用者数6,206人であり、買物公園4条以北の賑わいづくりにつながっている。
達成した（出来なかった）理由	主催者それぞれの手作りの催しが多く、全市的に活動内容の周知が不足している。また、限られたメンバー、予算の中で、ある程度利用者数が増加しているものの、エリア全体の人の流れの増にまで波及していない。
計画終了後の状況（事業効果）	地域の事業者や商店街、学生、ソトモノなど多様な交流の拠点となりつつあり、また、常磐公園など文化芸術ゾーンと文化をキーワードに繋がる取組が映画上映、落語、ライブ、ワークショップの開催など、具体的事業として、生まれている。
事業の今後について	個性的な文化的な事業のほか、多世代の交流拠点、地域のリビングとなるような取組などを事業者や地域が主体となり進めていく。

（7）観光客の増加

⑬. 「北の恵み 食べマルシェ」開催事業（「北の恵み 食べマルシェ」実行委員会）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金[経済産業省] 平成23年度 中心市街地活性化ソフト事業[総務省] 平成24年度～平成28年度
事業開始・完了時期	【実施中】平成23年度～
事業概要	買物公園をメイン会場として、北・北海道の「食」の魅力を発信するイベントを開催し、中心市街地の賑わい創出を図るとともに、北・北海道の特色を全国に向けてアピールする。
目標値・最新値	目標値(見込み):5,800人 最新値:30,369人(50,922→81,291人(観光情報センター利用者数))
達成状況	[達成] 平成23年度以降、毎年9月に3日間の開催で約300店舗の屋台が軒を連ねる「北の恵み 食べマルシェ」を開催しており、平成27年度は、9月のシルバーウィークを活用し、一部の会場の会期を5日間としたこともあり、延べ約125万人の来場者数を記録するなど、本市を代表するイベントになっている。「食べマルシェ」の開催を通じ、北・北海道の地域資源である「食」を広く発信するとともに、中心市街地の賑わいづくりにより、市民及びインバウンドを含めた観光客の中心市街地の来街促進に寄与したことから、目標を達成した。
達成した（出来	道内で広く認知されるイベントに成長し、本市の食の魅力も広まったこと

なかった)理由	により,中心部への来街促進が図られた。
計画終了後の状況(事業効果)	本市だけでなく道北エリア全体にとって,無くてはならない代表的なイベントに成長した。食の魅力のPR,本市への来街動機となっている。
事業の今後について	この取組を維持するとともに,他のイベントや施設,地域などへの相乗効果へつなぐ。

⑭. 北彩都地区観光集客施設誘致・建設事業(旭川市,民間事業者)

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	【実施中】平成23年度～
事業概要	新駅舎南側の忠別川右岸に整備中の大池周辺に,民間事業者の資金とノウハウを活用して,新たな観光集客施設の誘致・建設を図る。
目標値・最新値	目標値(見込み):5,800人 最新値:30,369人(50,922→81,291人(観光情報センター利用者数))
達成状況	[達成] 施設を建設する事業者への土地売却を目的とした公募を平成27年度に実施し,事業者と土地売却に係る契約を締結した。今後は,中心部の賑わいに寄与する施設となるよう当該事業者と連携する。 なお,当該施設は平成31年の春に完成の見込み。
達成した(出来なかった)理由	売却済みとなっているが,現状としては事業者の検討段階である。
計画終了後の状況(事業効果)	建設に至っておらず,効果は出ていない。
事業の今後について	事業者と調整を図りながら,シンボルとなるような機能を整備する。

3.今後について

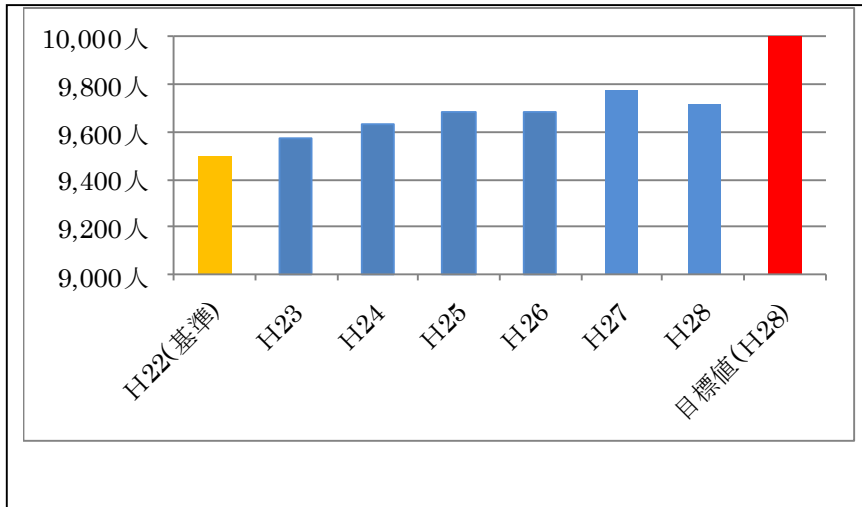
旧丸井今井の再生や北彩都事業のほか,公会堂リニューアル,食ベマルシェの開催など,基盤整備や基幹となるイベントの育成などを実施してきた。

整備した機能に人の流れが生まれるなど,直接的な効果が出ているだけでなく,副次的な効果として,大型ショッピングセンターやマンション,ホテルなど民間事業者の動きも活発化してきている。

しかしながら,現状では,そうした効果を中心市街地全体に波及させることが出来ていないことから,今後の効果的な成果づくりには何が必要か,これまでの計画推進体制や事業実施体制などの検証を行いながら,これまで整備してきた施設等を有効活用し,各エリアの個性を活かしながら,地域や事業者などが自ら考えて動ける,主体的かつ機動的な推進体制により,来街の動機付けと仕組みの埋め込み作業を進め,効果の実績を積み上げていく。

目標2「まちなか居住人口(中心商店街地区)」※目標設定の考え方基本計画 P88～P91 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H22	9,494 人 (基準年値)
H23	9,576 人
H24	9,628 人
H25	9,679 人
H26	9,641 人
H27	9,774 人
H28	9,715 人
	10,000 人 (目標)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：毎年9月末

※調査主体：旭川市

※調査対象：毎年9月末時点の住民基本台帳による中心商店街地区居住人口

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. (仮称) 中心市街地団地整備事業（旭川市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(住宅市街地総合整備事業:公営住宅整備事業等)[国土交通省] 平成23年度～平成28年度
事業開始・完了時期	【済】平成22年度～平成28年度
事業概要	合計3棟, 150戸の市営住宅を整備予定。76戸の子育て世帯への専用入居枠を設けるほか, 団地内に子育て支援施設を併設することで, ハード・ソフト両面から子育て世帯を支援。中心市街地に若年層世帯の流入を促進する。
目標値・最新値	目標値(見込み): 300 人 最新値: 221 人(9,494→9,715 人(まちなか居住人口))
達成状況	[未達成] 合計3棟, 150戸の市営住宅を整備。76戸の子育て世帯への専用入居枠を設けるほか, 団地内に子育て支援施設を併設することで, ハード・ソフト両面から子育て世帯を支援した。
達成した(出来なかった)理由	新たに生まれた北彩都エリアでは, 市営住宅のほか, 民間マンションなどの建設も相次いでおり, 人口が増加しているものの, 高齢者率が高いことにより, 自然減も多いことが原因である。
計画終了後の状況(事業効果)	平成25年度に1号棟(44戸), 平成26年度に2号棟(53戸), 平成28年度は, 市営住宅3号棟(53戸)が完成, 現状で324人が入居しており, まちなか居住人口が増加し, 日常的な賑わいづくりにつながっている。また, 平成27年度は, 市営住宅に隣接した「子ども活動センターASOBI～BA(あそび～ば)」が完成, 新たな交流・活動の場が生まれた。
事業の今後について	今後, 道営住宅3棟の建設が予定されているほか, 民間マンションの建設も進んでおり, さらに居住者の増加が見込まれる。

②. 高齢者等居住安定化推進事業（民間事業者） 6-4

支援措置名及び支援期間	高齢者等居住安定化推進事業[国土交通省] 平成22年～平成23年度
事業開始・完了時期	【済】平成22年度～平成23年度
事業概要	高齢者等居住安定化推進事業(国土交通省直接補助)を活用して、サービス付き高齢者向け住宅を整備する。
目標値・最新値	目標値(見込み):408人 最新値:221人(9,494→9,715人(まちなか居住人口))
達成状況	[未達成] 平成25年度以降、中心市街地エリア内にサービス付き高齢者向け住宅4棟が整備され、まちなか居住の促進に寄与している。
達成した(出来なかった)理由	中心部の高齢化率は、市全体と比較して高いことから、自然減が多くなっているため。
計画終了後の状況(事業効果)	利便性の高い中心部の高齢者住宅等のニーズは高く、郊外地域から比べ入居率が高い状況が続いている。
事業の今後について	今後の更なる高齢化に向けて、移住・定住の推進に係る取組と連携しながら、医療・福祉、健康づくりなど将来にわたり安心して暮らすことができる環境づくりを推進する。

③. まちなか移住・住み替え支援事業（旭川市，まちなか居住協議会）

支援措置名及び支援期間	市負担金 平成23年度～
事業開始・完了時期	【実施中】平成23年度～
事業概要	まちなか居住に関わる情報発信をインターネットなどで行いながら、市民のニーズに応じた中心市街地への移住・住み替えを誘導する。 また、まちなか居住を促進する上でインセンティブとなるような情報の整理・発信や取組に向けて調査検討を進める。
目標値・最新値	目標値(見込み):408人 最新値:221人(9,494→9,715人(まちなか居住人口))
達成状況	[未達成] 平成24年度に設立した「まちなか居住協議会」が、まちなか居住促進の取組を進めるとともに、平成25年度に「旭川市まちなか住み替え情報制度」を開始した。当初、50戸程度の住み替え支援を見込み、情報提供などを行っていたが、具体的な成果につなげることができなかった。
達成した(出来なかった)理由	ニーズと事業内容がマッチしておらず、効果的な取組が進まなかった。 また、空き家情報提供事業については、民間事業が充実しており、本事業の活用が広がらなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	計画期間内においては、取組が進まなかった。
事業の今後について	郊外からのまちなか居住者の誘導だけではなく、移住施策と併せた取組を行うため、ニーズの洗い出し・事業の再検討を行う。

3. 今後について

現在、駅周辺に複合施設の計画が進行中であることなどを背景に、ホテルや商業施設などの建設も相次ぎ、さらに、今後、道営住宅3棟の建設も予定されている。

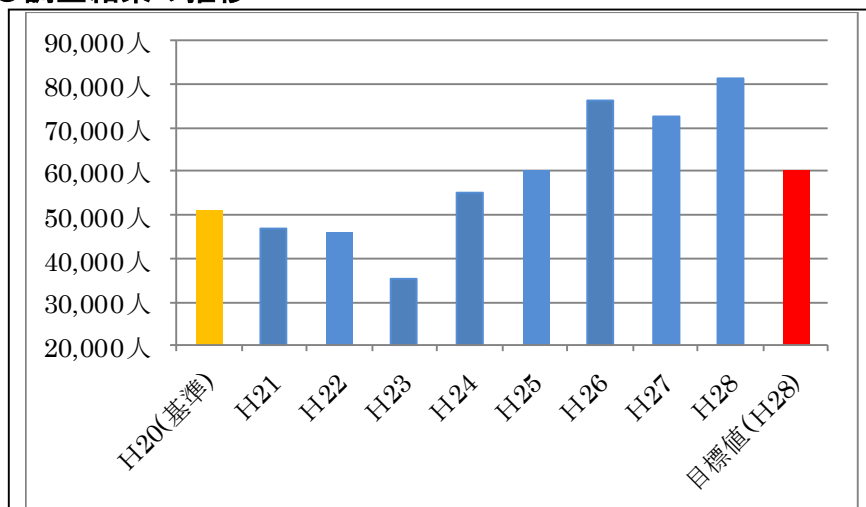
平成29年4月末のまちなか居住人口は、9,796人と引き続き増加傾向にあり、本計画の波及効果として今後の増加要因を加味すると、目標値の1万人を達成する見込みである。

今後は、将来の少子高齢化を見据え、移住・定住の推進に係る取組と連携しながら、医療・福祉、健康

づくり, 商業, 文化芸術など, 子育て世代や中高年齢者等が将来にわたり安心し, 充実した暮らしを営むことができる環境づくりを進め, 職住近接で利便性の高いまちなか居住の推進を図る。

目標3「観光情報センター利用客数」※目標設定の考え方基本計画 P91～P93 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H20	50,922人 (基準年値)
H21	46,989人
H22	45,723人
H23	35,534人
H24	54,933人
H25	60,063人
H26	76,127人
H27	72,483人
H28	81,291人
H28	60,000人 (目標値)

※調査方法：観光情報センターの利用客数を集計
 ※調査月：毎年3月末
 ※調査主体：旭川市
 ※調査対象：観光情報センターの年間利用客数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- 旭川駅周辺土地区画整備事業（駐輪場・駅前広場等）（旭川市）【再掲】P3 参照
- 「北の恵み食べマルシェ」開催事業（「北の恵み食べマルシェ」実行委員会）【再掲】P6 参照
- 北彩都地区観光集客施設誘致・建設事業（旭川市，民間事業者）【再掲】P6 参照
- 観光情報センター整備事業（旭川市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成22年度～平成23年度 中心市街地活性化ソフト事業[総務省] 平成24年度～平成28年度
事業開始・完了時期	【実施中】平成22年度～
事業概要	観光情報センターを新しくできる旭川駅東側コンコースに移設し，観光案内，バス待ち合い，物販・飲食などの機能を持つ施設として整備する。
目標値・最新値	目標値(見込み)：9,078人 最新値：30,369人(50,922→81,291人(観光情報センター利用者数))
達成状況	[達成] 平成24年2月の移設以降，利用者数は増加。平成25年度に目標値の6万人を越え，平成28年度は8万1千人と大幅に目標を上回った。
達成した（出来なかった）理由	ゆとりある空間を使った待ち合いスペースや，観光案内のカウンター，地場産品の物販・飲食機能が整備されたほか，外国語での観光案内にも対応し，年間を通じて多くの市民・観光客に利用され，認知されてきている。
計画終了後の状況（事業効果）	観光情報センターのある駅と隣接した旭川駅北広場では，天然氷のスケートリンクの「ゆっきリンク」が，旭川駅南広場では，本格的なクロスカントリースキーやスノーシュー，雪列車，バナナボートなどスノーアトラクションを充実させ，特に雪の降らない地域の観光客に大変好評となっている。
事業の今後について	今後は，更に増えると予想される旭川空港を利用する外国人観光客や旭山動物園のほか，上川，道北圏域の観光客などが，寄りたくなる動機付けと

なる場や仕組みを中心部に埋め込んでいく。

⑤. 【追加】旭川総合観光情報センター運営事業

(旭川市, 旭川まちなかマネジメント協議会, 観光コンベンション協会)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画)[国土交通省] 平成24年度～平成25年度
事業開始・完了時期	【実施中】平成24年度～
事業概要	買物公園4条以北の集客拠点として、総合観光情報センターを整備運営する。観光機能の一元化することで、ワンストップサービスを可能にし、観光客及び市民の利用を図る。
目標値・最新値	目標値(見込み):9,078人 最新値:30,369人(50,922→81,291人(観光情報センター利用者数))
達成状況	[達成] 平成24年度にフードテラス2階に、市観光課及び観光コンベンション協会事務室、観光情報センターを開設し、運営を開始。平成25年度には、地場産品販売コーナー、まちなかマネジメント協議会事務室を開設し、観光機能のワンストップサービスが実現したことで、4条以北の賑わいづくりに寄与している。
達成した(出来なかった)理由	主に外国人観光客の増加により、周辺の温泉地や観光地の宿泊施設だけでなく、中心市街地の宿泊数が増加した。また、個人旅行者など、観光情報センターに直接的に情報収集する層が増えたため。
計画終了後の状況(事業効果)	駅と直結したショッピングセンターや駅前広場、北彩都ガーデンなど、限られたエリア内での回遊が生まれてきている。
事業の今後について	7条緑道付近や常磐公園、銀座地区、神楽地区などエリアそれぞれの魅力をつなぎ合わせ、駅周辺エリアで生まれ始めた人の流れを他のエリアへも波及させる。

3. 今後について

近年では、旭川空港の国際線利用者数が平成25年度に約10万人、平成26年度は約16万人、そして平成27年度は約19万人と急増しており、また、中心部のホテル年間稼働率が平成27年度は約79%と高い稼働率になっていることに加え、新たなホテルがオープンするなど、中心市街地の活性化に向けた大きな追い風が吹いている。

また、旭川駅内の観光情報センター利用者数は、平成20年度の50,922人に対し、平成28年度では、81,291人(うち外国人観光客30,000人超)に急増しており、圏域、道北全体と連携したインバウンドの取り込みが一つの鍵となる。

これらを生かすように、本市の魅力を存分に体感できる冬期の観光コンテンツを充実させるとともに、北彩都ガーデンなどの観光資源や中心市街地でのイベントなどとの連携により、来街者がエリア内の「モノ」や「コト」に消費する「仕組み」、「場」、「人」を育てていく。